

第2回夕張市高等学校対策委員会会議録

- 1 日時 平成25年2月12日午後6時～午後7時30分
- 2 場所 夕張中学校 2階多目的室
- 3 出席者 別紙1
- 4 委員長挨拶 小林委員長
- 5 報告事項
 - (1) 平成24年度夕張中学校卒業予定者の進路について
 - (2) 平成16年度公立高等学校適正配置計画に係る対応について
- 6 説明
 - (1) 公立高等学校配置計画について
 - (2) 地域キャンパス校について
- 7 意見交換

委員	先程の道教委の説明の中で、1間口となった場合の一般的な教員数について、12名との説明がありましたが、これは来年度の1年生が1学級となった場合の教員数ですか。
道教委	先程説明した1間口の場合の一般的な教員数（12名）については、あくまでも1年から3年まで全て1間口となった場合の教員数なので、例えば1年が1間口で、2・3年が2間口の場合は、当然教員数はこれより多くなります。
委員	資料6についてですが、「1の地域キャンパス校について」の「地元からの進学率の高い場合」の割合の考え方はどのようになるのでしょうか。
道教委	道教委としては、地域キャンパス校の要件の一つである「地元からの進学率の高い場合」とは、普通科の場合は50%で線を引いています。夕張のように多くの地区で夕張高校以外の他の高校に通学することが困難な場合には50%を切るというのは考えにくいと思います。
委員	先程の資料6の説明の生徒に関わる連携のメリットとして、センター校との連携により「部活動の大会参加が可能となる」と記載されていますが、これは高体

連や高野連レベルの大会での参加が可能となるということでしょうか。

道教委

例えば十勝管内では4校合同で大会に参加したケースもございます。全ての種目で大会に参加できるかどうかについては、確認は取れておりませんが、少なくとも特定の種目では合同で大会に参加しているという事実がございます。

委員

夕張高校が地域キャンパス校となる場合の、センター校の考え方について教えて頂きたい。

道教委

センター校については、同一学区内の高校を基本としていおりますので、夕張の場合は同一学区内で4間口校となると基本的には岩見沢市内の学校との連携になるものと思います。

委員

地域キャンパス校についての質問ですが、資料7で出張授業について1週間に8時間程度実施するとありますが、夕張高校の教育課程では週当たり31時間の授業を実施することになっていますが、キャンパス校化することにより週31時間のうち8時間について出張授業を行うということで良いのか、センター校から出張してくる教員の人数はどのようになっているのか、また、遠隔授業の方法ですが、センター校の生徒とキャンパス校の生徒は同一の授業を行っているのか、また、どの位の割合で遠隔授業を実施しているのか伺いたい。

道教委

1週間当たりの出張授業の時間ですが、これは原則8時間程度ですのでセンター校によっては9時間実施している学校もあれば、事情によっては7時間の場合もあります。私どもとしては可能な限り8時間に近づくようお願いをしているところです。出張する教員の人数については、概ね3名位です。遠隔授業のスタイルについてのご質問ですが、センター校と同一の授業を実施しているかとの質問ですが、高校の場合は高校それぞれで教科書を採択いたしますので、使用している教科書が異なります。また単位数も違うというのが一般的でありますので、センター校の先生がキャンパス校の教科書を用いて授業を行います。従いましてセンター校とキャンパス校とが一緒に授業を行うということはありません。どれくらいの頻度で遠隔授業を実施しているかのご質問ですが、定期的を実施している訳ではございません。大体学期に1回程度の割合での実施をイメージして頂ければ良いと思います。3人の先生がいれば、それぞれ学期に1回ずつ合計3回程度の実施となるものと思われま。全く実施しないとなると、いざというときに実施できないので定期的実施するのが望ましいと考えています。

委員

今年の夕張中学校の生徒数を考えると悪くとも2間口を維持できるだろうと考えておりましたが、蓋を開けてみると非常に厳しい状況であり、想定していたよ

りも1年早まるのかなと考えております。現在の夕張中学校の1年生が60人を超えている状況で、夕張高校への進学率を考えると40人を超えると思われませんがその場合、仮に募集定員が1間口の場合で出願者が40人を1名～2名超えた場合の対応はどうなるのかなど考えなければならないと思う。

また、センター校とキャンパス校の関係ですが、先程の説明で合同で部活を実施しているとのことですが、それは距離が近い場合は可能ですが、遠距離となると移動するのにお金と時間が掛かるということ、部活動の場合もそうですが、毎年実施している演劇鑑賞にしても、仮にセンター校で実施するとなれば移動するにもお金がかかることになる。夕張高校の団体会計が年々減少していく中において経費的にも非常に厳しくなるものと感じております。

道教委

仮に今年の入学者選抜の結果で40人以下となった場合、1間口となりますが、26年度どうなるかと申しますと、26年度は今よりさらに中卒者が少なくなる状況にあるので、生徒の進路の状況は注視していかなければならないと思いますが、そこを2間口に戻すというのは難しいと考えています。27年はどうかという委員が言ったように67人の中卒者が見込まれている状況にあります。これまでの夕張高校への進学率を考えると40名は超えるだろうと思われま。夕張市のように他の学校へ通学できる環境にない学校において、例えば50人の出願者があるのに1間口で募集すると、10人の生徒が進学先を失ってしまうことになるので、そういうところについては道教委としても慎重に検討しなければならないと考えておりますので、入学者数が確実に40人を超える見込みがあるのであれば、2間口に戻すことになると思います。これまでの全道の状況を見ても、24年度の入学者選抜で結果として2学級から1学級に落ちた学校が何校かありましたが、その中で夕張と同じような事情で他の学校へ通学できない学校、例えば佐呂間高校や雄武高校、羅臼高校などでは翌年度において中卒者が多くいるので、2学級へ戻すという事例がありますので、27年度において中卒者が40人を超えることが確実に見込める場合については、2学級に戻すことになります。但し、25年度も26年度も夕張中学校から夕張高校への進学率が下がると27年度の進学率の推計値も必然的に落ちていく傾向になりますので、推計値では確実に2間口とは言えないですが、生徒の進路をしっかりと聞いて間違いなく夕張高校に進学するという生徒が40人を超えると見込まれるのであれば、間口決定に当たって重要な検討材料となるものと思われま。

生徒数の確保に向けて中学校、高校、市教委が連携し、高校は中学生や保護者にしっかりとPRし、中学校では進路指導をしっかりと夕張高校への進学率を高める方策を検討して頂きたいと思いま。

委員長

2年前になりますが胆振管内の厚真高校が苫小牧東高校をセンター校としてキャンパス校を実施しており、遠隔授業を視察させて頂いた経緯があります。その

時はあまり遠隔授業に用いられている機材が良くなかったのか、遠隔授業で全ての授業が整理できるものではないなという感想でした。あくまでも補完的な機能であり多少機材が良くなったとしても数多くできるものではないという思いがしました。今後議論を進めるにあたり、出張授業を数多くできるような方策を検討する必要があるのではないかと考えているところです。また、間口の問題につきましても現在の中学2年生、1年生の数を見極めながら検討委員会としてしっかりと議論していかなければならないと考えております。

委員

子どもの数が減少している状況で、これから夕張市内における子どもの数を増やしていくというのは現実問題難しいと考えているので、夕張高校の地域キャンパス校化が必然的な流れなのかなとは思いますが、先程委員長が言われたように遠隔授業について果たして授業として成立するものなのか少し懐疑的な感じしております。

委員

遠隔授業が補完的な扱いであると広がりがないような感じがします。テレビ会議やスカイプを使えば自宅にいても仕事ができるような時代であり、地域キャンパス校化に伴い遠隔授業を実施するにあたり、子供たちの心を豊かにしていくためには、もっと遠隔授業の活用を考えていく必要があるのではないのでしょうか。私が以前勤務していた岩見沢市内の小学校では年間にかかなりの数の遠隔授業を実施していました。双方向で同じ授業をそれぞれの学校で互いに質問しあっていました。そういう意味では夕張高校の40人の中での意見交換に止まらず、他の学校の生徒と意見交換や交流を行うことにより、教育環境的にはより広がりが出てくるのではないかと思いますので、キャンパス校における遠隔授業をより充実させる方策の検討も必要ではないのでしょうか。

道教委

各教科の授業としては少し難しい面もあると思いますが、例えば総合的な学習の時間などを活用して、北海道の他の地域の学校の生徒達と交流するといのは可能なので、ご意見を参考にさせていただきたいと思います。

8 その他

事務局

今回の検討委員会の開催日程についてですが、今年度の入学者選抜後における間口と、4月頃に道教委の主催で開催される地域別検討協議会において平成27年度の間口の見通しが示される予定となっております。これらのことを踏まえて夕張高校の今後のあり方、検討委員会としての取組について議論を深めたいと考えておりますので、4月ないしは5月頃の開催を考えております。近くなりましたら、なるべく早く皆様にお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。

9 閉会

10 配布資料等一覧

資料1 公立高等学校配置計画に関する説明資料

資料2 新たな高校教育に関する指針

資料3 高等学校配置計画検討資料

資料4 空知南学区高校配置計画

資料5 夕張高校の状況

資料6 地域キャンパス校について

資料7 地域キャンパス校